

[成果情報名] サイズ「すずおとめ」の奨励品種採用(予定)

[要約] 納豆用のサイズ品種として、子実が球形、白目で裂皮が少ない小粒の「すずおとめ」を奨励品種に採用する(予定)。適正な播種密度は平方メートル当たり20粒程度、播種適期は7月上中旬である。

[キーワード] サイズ、納豆用小粒、すずおとめ、奨励品種

[担当] 三重科技セ・農業研究部・作物研究課、伊賀農業研究室

[代表連絡先] 電話 0598-42-6354

[区分] 関東東海北陸農業・関東東海・水田作畑作

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

三重県の大豆作(作付面積 2930ha)は、主に豆腐に用いられる「フクユタカ」が作付面積の95%以上を占めている。しかし、実需者から、県産でより納豆に適した小粒大豆の生産要望を受けて、2002年頃から九州沖縄農業研究センター育成の「すずおとめ」が栽培され始めた。2007年産で約30haの作付けがあり、それを使った納豆が市販されている。今後さらに需要の拡大が見込まれることから、「すずおとめ」を奨励品種に採用し、生産の振興を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 「すずおとめ」は、粒形が球で、白目で裂皮が少なく、百粒重が10g程度の小粒大豆である(表1)。
2. 「すずおとめ」は「フクユタカ」と比較して、次のような特徴がある。成熟期は、6月末播種では18日程度、7月中旬播種では7日程度早い早生品種である。主茎長は同等でやや長く、耐倒伏性は「フクユタカ」と同様に高くない。稔実莢数は多いものの百粒重が小さいため、収量性はやや劣る。腐敗粒の発生はわずかに多いが、裂皮は少なくて外観品質は概ね同等である(表1、表2)。
3. 一般的に食味評価が高い北海道産「スズマル」の納豆との食味比較では、軟らかくて「香り」の評価は低い。しかし、「糸引き」は同程度で、「味」については良好であり、納豆用原料として概ね良好な評価である。(表3)。
4. 適正播種密度は平方メートル当たり20粒程度である。主茎長、倒伏程度および収量は播種密度の影響が大きく、播種密度が平方メートル当たり30粒を超える高密度になると倒伏を助長して減収する(表2、図1左)。
5. 6月中の播種では、倒伏程度が「3」以上の著しい倒伏となりやすいが、7月上中旬播種では倒伏が軽減される。(図1右)。

[成果の活用面・留意点]

1. 栽培予定地域は県内全域で、当面の普及予定面積は約60haである。
2. 成熟期が「フクユタカ」よりも1週間以上早いため、収穫作業の分散が可能である。
3. 小粒であることから、適正播種密度とするため播種量(百粒重10gで播種量0.2kg/a)に留意する。

具体的データ

表1 「すずおとめ」の生育・収量特性・奨励品種決定調査)

試験地	品種名	成熟期 (月・日)	主茎長 (cm)	倒伏 (0-5)	最下 着莢高 (cm)	稔実 英数 ()	収 量			百粒重 (g)	外観 品質 (1-7)	障 害 粒			
							全重 (kg/a)	子実重 (kg/a)	同左 比率(%)			紫斑粒 (0-5)	褐斑粒 (0-5)	裂皮 (0-5)	腐敗粒 (%)
松阪市	すずおとめ	10.16	81	2.6	15	1794	65.7	29.0	91	9.6	4.6	0.3	0.1	0.5	3.2
	フクユタカ	11.03	87	2.9	16	1012	75.3	31.8	100	30.1	4.8	0.0	0.7	1.0	2.3
伊賀市	すずおとめ	10.28	53	0.0	11	1853	51.0	25.5	83	11.6	5.0	0.0	0.0	0.0	-
	フクユタカ	11.04	51	0.0	12	904	56.1	30.6	100	33.1	5.0	0.0	0.0	3.5	-

※松阪市 農業研究部における2001年～2005年(2004年を除く)の奨励品種決定調査の4年間の平均。
ただし最下着莢高は2007年のみデータ。伊賀市 伊賀農業研究室における奨励品種決定調査の2006年のみデータ。
播種期は松阪市は6月第6半旬、伊賀市は7月13日。播種密度は、農業研究部は16粒/m²、伊賀農業研究室は19粒/m²。
倒伏程度、障害粒程度は無(0)～甚(5)の6段階。外観品質は上(1)～下(7)の7段階評価。
腐敗粒は子実重に対する重量割合を表す。

表2 「すずおとめ」の現地試験結果

試験場所	試験年次	品種名	播種期 (月・日)	成熟期 (月・日)	主茎長 (cm)	倒伏 (0-5)	収 量			苗立ち 密度 (本/m ²)	備 考
							子実重 (kg/a)	同左 比率(%)	百粒重 (g)		
菟野町	2002	すずおとめ	7.19	11.20	67	0.0	33.3	133	11.8	—	中耕培土2回、無施肥、無防除
		フクユタカ		11.28	63	0.0	25.0	100	36.0	—	たい肥50kg/a施用
多気町	2003	すずおとめ	7.13	11.20	49	0.0	26.7	-	11.1	—	中耕培土2回、無防除 たい肥50～100kg/a施用
		フクユタカ		11.10	76	1.5	27.4	100	26.3	14	無防除、無施肥 たい肥施用、中耕1回

※試験ほ場は全て転換畑。

表3 「すずおとめ」の納豆食味評価

	かたさ	香り	糸引き	味
評価	-0.39	-0.39	-0.06	0.72

※北海道産「スズマル」を基準とし±1の3段階で比較評価した。
供試した両品種の納豆は平成15年産で、一般販売している県内K食品製。
パネラーは「すずおとめ」生産者、関連JA、町役場、普及センター15人。

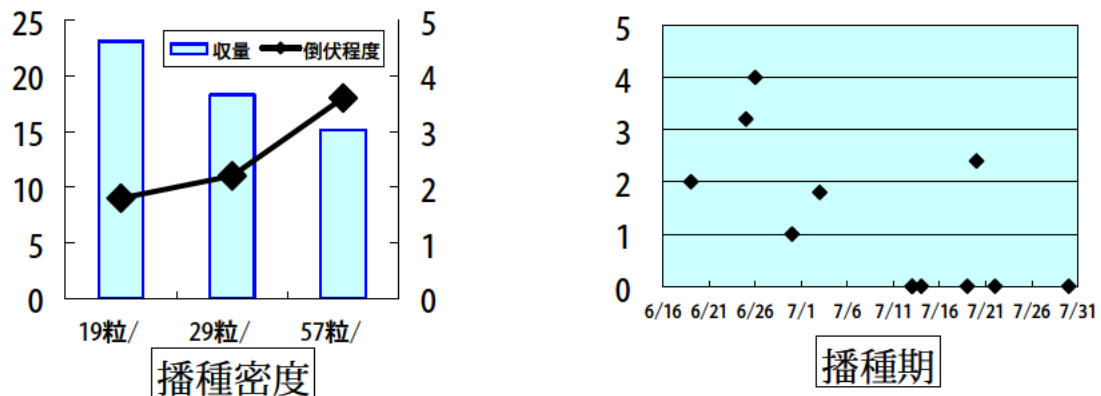


図1 「すずおとめ」の播種期および播種密度が収量と倒伏程度に及ぼす影響

※ 播種密度の図は、2007年の試験場内における栽培試験1(月上旬播種)の結果。
栽培試験では株間のみ調整により、異なる播種密度を設定した。
密度(畝間×株間 (cm))は低い方から=70×15、70×10、70×5。
播種期の図は、奨励品種決定調査および現地試験(標準播種密度のみ)、栽培試験の結果。

その他

研究課題名：大豆奨励品種決定調査

予算区分：県単

研究期間：2001年度～2007年度

研究担当者：宮本啓一、松井未来生、村上高敏、山川智大、神田幸英

